

NEWS

JAAF
HIROSHIMA

陸協ひろしまニュース
一般財団法人 広島陸上競技協会

第79号

H27.12.23発行



岡山沙英子

Saeiko Okayama

広島が生んだ大型ジャンパー
母なる輝き放つ

競技人生を懸命に駆け抜ける

岡山沙英子

走幅跳

広島JOC

Saeko Okayama

プロフィール | 岡山沙英子(おかやま・さえこ) 180cm / 63kg
1982年(昭和57年)4月2日生まれ
井口中一沼田高一早稲田大ー広島JOCー山口TFCーボスアルー広島JOC

自己ベスト | 走幅跳: 6m59(2013年・日本選手権)



広島が生んだ大型ジャンパーが、鮮やかによみがえった。広島・沼田高出身の33歳、岡山沙英子(広島JOC)。出産による1年のブランクを乗り越え、6月の日本選手権の女子走幅跳で2年ぶり3度目の優勝。10月の和歌山国体では、8年ぶりに古里・広島のユニホームで出場し、成年女子走り幅跳びを制覇した。女子陸上界の世代交代に「待った」をかける、強烈な輝きであった。

2012、13年と日本選手権を連覇。しかし、女王は翌14年、完全に表舞台から姿を消した。5月に長女を出産したためだ。アスリートにとって、出産によるブランクは大きなハンディとなる。ただ、引退は考えなかった。「絶対に復帰すると決めていた。女性が出産後の体で、どれだけ競技ができるかを知りたかったし、自分がその実験台になれば、今後の選手の役に立てるのではないかと思った」。

出産後も、頭には常に陸上のことがあった。「自分の体と子供のケア。環境や条件が整ったら練習をスタートというつもりでいた。いろいろ試行錯誤しながら、子供が寝ている間に家でトレーニングしたりしていた」。本格的な練習再開は2015年1月。目標は、半年後の日本選手権への出場だった。「そのためには、日本選手権の出場標準記録を突破しなくてはいけない」。

復帰への道は険しいものだった。「技術的な部分はそこまで変わらないと感じた。しかし、13年の現役の時と比べたら全全体ができていないので、筋力が落ちていた。見た目の筋力は変わらないが、動きの中での筋力が弱かった」。3月、住居のある米国の記録会に出場したが、左脚を肉離れし、突破できず。

帰国し、5月の尾道市での記録会でようやく出場資格を得た。

2年ぶりの日本選手権(6月27日、新潟デンカビッグスワンスタジアム)。「優勝」の二文字は頭にはなかった。自分の体の状態に自信が持てなかったからだ。大会直前に、ぎっくり腰を何度も繰り返し、練習を積みなかった。「試合の3日前に、ようやく跳躍ができる状態。とりえずは予選を通過できればいいかなとは思っていた」。そんな不安は杞憂だった。

2本目で6m12をマークし、トップに立つ。これで、「徐々に闘争心が湧いてきた」。4本目で6m21まで記録を伸ばし、そのまま逃げ切り。2年ぶりに日本の頂点に立った。「経験で勝てたという感じ。スピードがないし、イメージ通りに跳べない」。満足いく記録ではなく、自己評価も厳しかったが、表彰台では笑顔で観衆の拍手に応えた。



この優勝が、新たな道を開いた。「日本選手権を最後にやめようと考えていた。けががいっぱいありすぎたんで。でも、思ってもいなかった優勝で、もうちょっとやらないといけないという気持ちになった。こんな記録ではやめられないし、うれしいことに、海外での試合の招待をいただいたので。夏場は試合をしながら、練習を重ねた。「タイミングもずれていたし、改善するところはたくさんあった。試合を練習に使っていた」。

9月、日本代表としてフランスの競技会に出場。体の仕上がりは、出産前の6~7割だったが、跳躍の感覚は戻ってきていた。「この遠

征で、この感覚に体がついてくるか。練習したことができれば壁を乗り越えられる」。しかし、結果は6m06で惨敗。目標の6m50には遠く及ばなかった。

「気持ちが大きくへこんだ」。自信を失いかけた岡山を救ったのは、「国体」という次なる目標だった。初出場は井口中3年だった1997年の大阪国体。それ以降、少年、成年で優勝を経験するなど、輝かしい成績を残してきた。「お祭りのような雰囲気の大大会。お世話になった古里の方々への恩返しのもつりて頑張ろうと思った」。必死で気持ちを切り替えた。



和歌山国体(10月4日、紀三井寺公園陸上競技場)。岡山は圧倒的な強さを見せた。1本目で6m19をマークし、トップに立つ。その後も記録を伸ばし、一度も首位を譲らない。意識したのは踏み切りだった。「広島の先生に、(助走の)スピードを意識しすぎて、しっかり踏み切れていないと指摘されていたんで」。5本目。最高の手応えを感じたジャンプは、わずかにファウル。「(目標の)6m50を超えていた」と悔しがった。最終成績は追い風参考の6m37。4年ぶりの国体制覇だった。

「年内に6m50以上を跳びたい。何とか壁を乗り越えたい」。年内の大大会での結果に、その後の競技人生をかけていた。そんな岡山に、思わぬ試練が襲う。11月8日に、山口・維新百年記念公園陸上競技場で行われた田島記念。6m19で優勝を果たしたが、11月末に右膝の骨軟骨腫の手術を受けることを明かした。「(今年は)ラッキーなシーズンだった。出た試合は優勝できた。本当は来年までやろうと思っていたけど...」。涙を浮かべながら、今季限りで第一線を退く可能性を示唆した。懸命に駆け抜けた2015年。このまま競技人生が終わりを告げようとも、その輝きが色あせることはない。



text by (K)

OCTOBER
10
FRI
2
1
日目



チーム広島
がんばれ〜



▲蔵田雅典選手

前日準備の段階で爆弾低気圧が大暴れし販売ブースのテントが吹き飛び、選手用テントも非常に危ない状況だったが、「チーム広島」として選手29名、監督・スタッフ10名で予定通り大会が始まった。入賞者を中心に大会を振り返る。

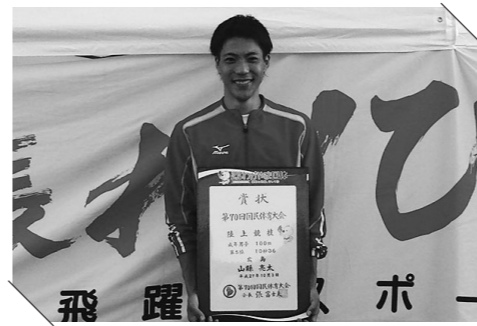
大会初日は少年男子A棒高跳で今夏に行われた和歌山インターハイのリベンジを図り、蔵田雅典選手が横風で非常に競技が難しい中、7位入賞し、幸先の良いスタートを切ってくれた。この波に乗り1週間前の全日本実業団で優勝し、2週連続の優勝を目指した成年女子ハンマー投の渡邊茜選手が4投目に逆転され残念な気もする2位だった。渡邊選手は4年連続の入賞を果たした。



▲渡邊茜選手



真剣な表情のミーティング!



▲山縣亮太選手



▲田嶋郁也選手

OCTOBER
10
SAT
3

2
日目

2日目、まずはフィールド種目において少年女子Aハンマー投で高木優子選手が一投目に自己セカンド記録を投げ4位入賞し、その勢いが続き少年男子A走幅跳ではやはり1回目にしっかり記録を残し田嶋郁也選手が8位入賞した。その後、昨年優勝した成年男子100mの国体男子(少年男子A・B・成年各部門優勝)山縣亮太選手が故障明けで1日3本走るのが厳しい中、5位入賞し来年のオリンピックへ向け順調な回復を見せてくれた。



先生方
おめでとうございます!



▲左から池田先生、河野専務理事、福地先生

優秀指導者章を受章!

大会2日目の10月3日(土)に行われた授与式において高校優秀指導者章に福地光文先生(広島工大高校)、中学優秀指導者章では池田義和先生(三原第二中学校)が表彰された。おめでとうございます。

「頑張れチーム広島」和歌山国体にて

第70回国民体育大会 / 第15回全国障害者スポーツ大会 《総合成績》天皇杯(男女):46点(17位) / 皇后杯(女):33点(9位)

東日本大震災復興支援

2015 紀の国わかやま国体 2015 紀の国わかやま大会

躍動と歓喜、そして絆

みんながんばったよ!



家族の力は凄いね!



3日目は故郷から出場するのは8年ぶりの岡山沙英子選手がママとなり復活!!本年度日本選手権大会優勝の勢いをもって、「広島のために」と出場してくれた。1回目の跳躍からトップになりその後も記録を伸ばし、見事な優勝。この日、娘のリヤちゃん、旦那様、お母様の声援もあり岡山ファミリー最高の日となった。ちなみにお母様の恵美子さんもこの紀三井寺の競技場で優勝したことがあるという岡山家にとって縁起の良い競技場だった。続いて成年男子棒高跳では、3週間前にあった全日本学生選手権大会に優勝した山本智貴選手が昨年度のリベンジをかけて非常に気合の入った試合運びを見せてくれた。自己セカンド記録となる5m40を一発でクリアし、3位に入賞した。最後に今年アジアユース大会で5位に入賞した二本松結衣さんの少年女子B100mH。予選・準決勝と自己ベストで決勝に残り見事6位に入賞した。

OCTOBER
10
SUN
4
3
日目



▲岡山沙英子選手



▲山本智貴選手



▲二本松結衣選手



▲福部真子選手



OCTOBER
10
MON
5
4
日目

4日目は高校時代に大活躍した福部真子選手の出場である。成年女子100mHにおいて予選から快調に走り決勝で5位に入賞した。この日は、この1種目のみの入賞だったが、毎日の入賞は途切れなかった。



チーム広島って
仲が良いいね。



OCTOBER
10
TUE
6
5
日目 (最終日)

最終日、少年女子A3000mで小吉川志乃舞選手がスタートから積極的にレース運びをし、自己新記録で3位に入賞した。総合得点46点を獲得することができた。

和歌山国体を振り返って...

今回の和歌山国体ではエントリー段階から故障者が出て、大会直前にも入れ替わる選手が出るなど非常に厳しい大会になることを予想していた。広島で育ったジュニアがシニアになり、どうにか形を作ってくれ大変感謝している。来年の岩手国体に向けしっかり強化策を考え取り組むようにし、さらなる飛躍ができるようにしていきたい。

年代別レポート

小体連

今年で第31回となった全国小学生陸上競技交流大会が、8月21日(金)22日(土)に神奈川・日産スタジアムで行われた。7月の予選を勝ち抜いた代表22名で広島県選手団を結成し、チーム広島として一致団結し、競技した。

結果は、6年生女子100mで中野東陸上の脇里桜さんが13秒29で8位入賞、男子4×100mリレーでCHASKI(米澤晴惟くん、谷口朝陽くん、恵南優貴くん、坂田陽貴くん)が51秒35で6位入賞、そして、なんと女子走幅跳では高須子ども会の岡田麻奈さんが4m91cm(広島県記録)で見事優勝した。広島県選手の優勝は、31年の歴史の中で初の快挙だった。その他、自己ベストも数多く出た。

全国大会で、全県から集まった仲間と寝食を共にする楽しさ、最高の舞台で競技できる喜びを感じる一方、他県代表のレベルの高さ、思うような結果を出せなかった悔しさ、目標とする大会でベスト記録を出す難しさを味わった選手もいた。それらすべてがこの夏のいい思い出、かけがえのない宝物となった。そして、この経験を生かし、今後の活躍を願っている。

広島陸協の皆様を始め、関係者の皆様方には、ご支援をいただきありがとうございました。

今後とも小学生への陸上競技普及に対して、ご指導・ご協力のほどよろしくお願い致します。

指導・普及委員会副委員長
海田町立海田南小学校 石川 和明



中体連

本年度の短距離・フィールドの個人的ランキングベスト6で振り返ってみた。

《第6位》

2年生男女の走幅跳に勢いあり。

男子では、森 愛基(大柵2)6m36、乃美裕介(三原第三2)6m22、奥本正幸(磯松2)6m11など6m台が多数出た。女子も2年生本多佑莉(長江2)が北海道全中へ出場、ジュニア五輪入賞。荒谷弥希(福山城南2)の5m34cmをはじめ吉川あやの(宇品2)鵜飼都々菜(井口2)など好記録を生んだ。

《第5位》

男子100m柏原真希(八本松3)100mにて12秒34

県中学記録12秒31に迫る好記録。国民体育大会にも参加。

《第4位》県中学選手権男子100mのレベルが高い。

追い風2.5mながら1位高卯健太郎(福山城北3)10.82、2位松田優人(安芸府中3)10.91をはじめ6位までの平均タイムが11.11であった。

《第3位》

男子110mハードルで福本廉(海田3)が

14秒24の県中学新記録

本年度日本選手権優勝の高山峻野(中広中出身)が保持していた県中学記録を更新した。

《第2位》

男子400mのレベルが高い。

天野伊織(府中緑ヶ丘3)、藤田竜司(県立広島3)の50秒台、荒谷修平(高屋3)川嶋 昂(大竹3)51秒台まで4人が好記録。この4人で4×400mリレーを走れば日本中学記録(3分21秒88-静岡県選抜'07)達成も夢ではない。ジュニアオリンピックにマイルリレーがあれば、今年には勝ったかも。

《第1位》

福山地区男子4×100mのレベルの高さは

日本トップレベル。

北海道全中 第8位 神辺中(通信陸上県第1位)

中国中学 第1位 福山中(県中選手権第1位)

県中学総体 第1位 神辺東中

リレー種目で福山地区の3中学校が全国レベルに引き上げた。

以上勝手にランキングを記述したが、どの選手も自己記録更新や個人での歴史的瞬間を体験できた。陸上競技はその個人的レベルの向上こそが楽しみの醍醐味だ。最高の舞台を作り上げ感動を積み重ねていこう。

また、地域の小学生対象陸上クラブ出身の中学生の成長がめだつ。今後、中学校や中体連強化部との連携がさらなる発展の鍵となるのではないだろうか。

広島県中学校体育連盟陸上競技専門部強化副委員長
広島市立河内中学校 井上 恭治

高体連

2015年度高校生の活躍

夏から秋のシーズン、そして駅伝の季節となった。本年度の全国大会入賞者は次のとおりである。

●全国高校総体(和歌山インターハイ)

◎男子5000m

4位 ポールカマイシ(世羅) 14分03秒11

◎男子1100mH

8位 富山 弘貴(神辺旭) 14秒69

◎女子200m

7位 湯浅佳那子(広島皆実) 24秒89

◎女子400m

4位 池崎 愛里(舟入) 55秒08

◎女子800m

3位 池崎 愛里(舟入) 2分07秒28

◎女子3000m

3位 向井 優香(世羅) 9分14秒73

4位 小吉川志乃舞(世羅) 9分15秒14

◎女子円盤投

5位 脇田 清加(西条農) 40m29

●和歌山国体

◎少年男子A棒高跳

7位 蔵田 雅典(近大東広島) 4m80

◎少年男子A走幅跳

8位 田嶋 郁也(広島皆実) 7m22

◎少年女子Aハンマー投

4位 高木 優子(安芸) 47m76

◎少年女子B100mH

6位 二本松結衣(神辺旭) 13秒91

◎少年女子A3000m

3位 小吉川志乃舞(世羅) 9分14秒34

●日本ユース選手権

◎男子200m

5位 松尾 隆雅(神辺旭) 21秒54

8位 高橋 侃矢(市立福山) 21秒85

◎女子800m

3位 池崎 愛里(舟入) 2分10秒64

◎女子100mH

8位 二本松結衣(神辺旭) 14秒41

◎女子円盤投

4位 脇田 清加(西条農) 38m35

◎女子ハンマー投

5位 大藤詩絵里(安芸) 41m63

昨年度インターハイでは入賞者が2名だったが、今シーズンは8名に、日本ユース選手権の入賞者数も昨年3名であったが、本年度は6名となった。また、駅伝シーズンにも突入し、本年度も世羅高校が男女とも広島県代表となった。さらに、記念大会による中国地区代表として西条農業が11年ぶり8回目の全国大会出場を決めた。

●県高校駅伝

◎男子優勝 2時間03分26秒 大会新

世羅(中島、井上、デビッド・グレ、吉田、山口、植村、新迫)

◎女子優勝 1時間08分57秒

世羅(小吉川、浅田、見田、長尾、向井)大会新

●中国高校駅伝

◎男子4位中国地区代表 2時間10分59秒

西条農業(東、谷尾、森田、坂口、南、山本、政光)

広島県高体連陸上競技部競技力向上委員長

広島県立広島皆実高等学校 樋口 裕志



学生連盟

5月15日から17日まで、岡山県で第69回中国四国学生陸上競技対抗選手権大会が開催された。男子走幅跳において藤原駿也(広島経済大3年)の大会新記録での優勝や女子10000mWにおいて山田千花(広島大2年)の優勝をはじめ、数多くの広島勢の選手が好成績を残す大会であった。藤原選手は2015年日本学生陸上競技個人選手権大会でも6位入賞と素晴らしい記録を残している。

また、9月23日に道後山で行われた、第47回全日本

大学駅伝対校選手権大会中国四国地区予選会では、宮本健太郎(広島経済大1年)をはじめとする広島経済大学が2位以下のチームを引き離して優勝し、第27回出雲全日本大学選抜駅伝の出場権を獲得し、中四国の代表として力走をみせてくれた。同大会で好記録を残した、井野口慎之輔(広島大2年)と細川誠司(広島大3年)も中国四国選抜として出雲駅伝への出場を果たしている。

そして、10月16日から18日まで、徳島県で行われた、第38回中国四国学生陸上競技選手権大会でも、多くの広島県学連の選手が優勝・入賞している。

このような好成績を残せたのも県陸協をはじめ、皆様のご支援があったからだ。その感謝の気持ちを忘れず、今まで以上に広島県陸上界に貢献できるよう努力していきたい。

中国四国学生陸上競技連盟広島支部 幹事長
広島修道大学 塩出 諒

実業団連盟

6月6日(土)、庄原市上野総合運動公園陸上競技場にて第53回広島県実業団陸上競技選手権大会を開催した。大会は例年比と比べて高い競技力を持つ選手が揃ったこと、学生連盟との合同開催により、多くの選手が会場に集い、競い合ったことで、大いに盛り上がった。中でも、5000mでは近年にない接戦を繰り広げ、JFEスチールの岡本雄大が13分53秒44の好記録で優勝した。

駅伝では、10月25日(日)に第53回広島県実業団駅伝競走大会を、岡山県笠岡陸上競技場発着で開催した。コースは1部47.52km、2部37.50kmをそれぞれ6区間に分けて行い、1部では、3区途中で先頭を奪ったJFEスチールAが後半そのまま逃げ切り3年ぶりの優勝。2部では1区で区間最高記録を出し、流れに乗った三菱レイヨン大竹が優勝した。

今後、一般種目は秋の競技大会を終え翌シーズンへの移行期へ入り、長距離種目は2016年に開催されるオリンピックのマリン種目代表選考会への挑戦が本格的に始まる。多くの選手が選考大会へ挑戦し、代表の枠を勝ち取り、世界の舞台で活躍することを期待したい。

広島県実業団陸上競技連盟 事務局
中国電力 本多 浩隆



広島県実業団選手権(5000m)

マスターズ連盟

2015年度も4月26日、広島道後山クロカンパークで中国マスターズクロカン大会が開催され、多くの選手が参加し、今年度の大会の幕を開けた。続いて6月7日、第33回目を迎えた広島マスターズ陸上競技選手権大会が広島県立びんご運動公園陸上競技場で開催された。大会には男女合わせて昨年より多い273名が28種目の競技に参加した。記録をみると日本記録、県記録、大会記録が48個生まれ、大会としての十分な成果があった。中でも98歳の最高年齢で出場された富久正二選手は60m、100mで大会新記録を出すなど大会を盛り上げることができた。7月25日からは中国マスターズ陸上競技選手権大会が出雲市浜山陸上競技場で行われ、広島マスターズからも多くの選手が出場し、昨年に続いて優秀賞、敢闘賞に輝く等、広島県勢が活躍している。来年8月には第35回記念中国マスターズ陸上競技選手権大会が広島で行われる予定である。すでに実行委員会を立ち上げており準備が着々と進んでいる。

広島マスターズでは「明るく」「楽しく」をモットーに活動の輪を広げて参ります。270名の会員と共に競技してみませんか。会員の登録をお待ちしております。

ホームページアドレス
<http://sports.geocities.jp/mastershiroshima/>

広島マスターズ陸上 広報 福留 征二



広島県マスターズ選手権でM95 60m、100mで大会新を出した富久正二



ごあいさつ

専務理事 河野 裕二

伝統ある広島陸上競技協会の専務理事を仰せつかり、身も心も引き締まる思いです。今を大切に生きることは最も重要と考えますが、組織として、先を見据えて歩を進めることはさらに価値あることかも知れません。広島県の陸上競技界は未来にどのような姿を求めるべきなのか。永く本協会の継続発展に尽くされた諸先輩方の思いを根っこにして、次の時代を担う方々とその風景を語り合い、一粒でもその種を蒔き始められたらと思います。皆様、どうぞよろしく願いいたします。

平成27年度 一般財団法人広島陸上競技協会 受賞者名簿

公益財団法人日本陸上競技連盟栄章

- 高校優秀指導者章 福地 光文 (広島工業大学高校教諭)
- 中学優秀指導者章 池田 義和 (三原第二中学校教諭)
- 高校優秀選手章 真野 友博 (山陽高校→福岡大学)
- 中学優秀選手章 二本松結衣 (長江中学校→神辺旭高校)
- 安藤百福記念章 山本 勝之 (可部AC)

公益財団法人広島県体育協会体育賞

【功労者の部】

- 島本 靖 (広島陸協)
- 西川 弘志 (竹原市)
- 澤井 邦彦 (県高体連)

一般財団法人広島陸上競技協会表彰

【功労章】

- 隼本 武直 (広島市)
- 後藤 俊明 (広島市)
- 山本 豊 (廿日市市)
- 東谷 寛明 (江田島市)
- 池田 弘人 (世羅郡)
- 幸川 弘子 (竹原市)

公益財団法人広島県体育協会体育賞 一般財団法人広島陸上競技協会表彰

●優秀選手賞

〈国際大会の部〉

- 工藤 有生 (駒澤大学)
第28回ユニバーシアード競技大会 (7月12日・韓国光州)
男子ハーフマラソン 5位 1時間06分10秒
- 木村 文子 (エディオン)
第21回アジア陸上競技選手権大会 (6月3日・中国武漢)
女子100mH 3位 13秒41
- 向井 優香 (世羅高校)
第9回世界ユース陸上競技選手権大会 (7月16日・カリ)
女子3000m 5位 9分21秒04
- 二本松結衣 (神辺旭高校)
第1回アジアユース陸上競技選手権大会 (5月9日・ドーハ)
少年100mH 5位 14秒51

〈国内大会の部〉

- チャールズ・ディランゴ (JFEスチール)
第50回千葉国際クロスカントリー大会 (2月8日・千葉)
一般男子12km 36分14秒
第43回全日本実業団ハーフマラソン大会 (2月15日・山口)
男子ハーフマラソン 1時間00分18秒
 - 岡山沙英子 (広島ジュニアオリンピック)
第99回日本陸上競技選手権大会 (6月27日・新潟)
女子走幅跳 6m21
第70回国民体育大会 (10月4日・和歌山)
成年女子走幅跳 6m37
 - 高山 峻野 (明治大学)
第99回日本陸上競技選手権大会 (6月27日・新潟)
男子110mH 13秒81
 - 宮城 孝成 (東海大学)
2015日本学生陸上競技個人選手権大会 (6月14日・平塚)
男子3000mSC 9分05秒67
 - 山本 智貴 (日本体育大学)
2015日本学生陸上競技個人選手権大会 (6月14日・平塚)
男子棒高跳 5m30
第84回日本学生陸上競技対校選手権大会 (9月13日・長居)
男子棒高跳 5m40
 - 岡田 麻奈 (高須子ども会)
第31回全国小学生陸上競技交流大会 (8月22日・日産)
女子走幅跳 4m91
- #### 〈第70回国民体育大会優勝および入賞の部〉
- [1位] ●岡山沙英子 (広島ジュニアオリンピック)
成年女子走幅跳 6m37
 - [2位] ●渡邊 茜 (丸和運輸機関)
成年女子ハンマー投 62m42
 - [3位] ●山本 智貴 (日本体育大学)
成年男子棒高跳 5m40
●小吉川志乃舞 (世羅高校)
少年女子A3000m 9分14秒34
 - [4位] ●高木 優子 (安芸高校)
少年女子Aハンマー投 47m46
 - [5位] ●山縣 亮太 (セイコーホールディングス)
成年男子100m 10秒36
●福部 真子 (日本体育大学)
成年女子100mH 13秒66
 - [6位] ●二本松結衣 (神辺旭高校)
少年女子B100mH 13秒91
 - [7位] ●蔵田 雅典 (近畿大学附属広島高校東広島校)
少年男子共通棒高跳 4m80
 - [8位] ●田嶋 郁也 (広島皆実高校)
少年男子A走幅跳 7m22

一般財団法人広島陸上競技協会表彰

●新記録賞

〈県小学生記録〉

- 岡田 麻奈 (高須子ども会)
女子走幅跳 5m10
第40回広島県民体育大会 (10月4日・上野総合公園)
- 脇坂 里桜 (中野東陸上クラブ)
女子100m 13秒08
第40回広島県民体育大会 (10月4日・上野総合公園)

〈県中学生記録〉

- 福本 廉 (海田中学校)
男子110mH 14秒28
第61回全日本中学通信広島県大会 (7月5日・広島広域公園)

〈県高校記録〉

- 吉田 圭太 (世羅高校)
男子5000m 13分50秒67
第6回チャレンジゲームズ in 大銀ドーム (10月17日・大分)
- 向井 優香 (世羅高校)
女子3000m 9分04秒69
第1回広島県長距離記録会 (11月14日・広島広域公園)
女子5000m 15分31秒92
第6回チャレンジゲームズ in 大銀ドーム (10月17日・大分)
- 小吉川志乃舞 (世羅高校)
女子3000m 9分05秒80
第1回広島県長距離記録会 (11月14日・広島広域公園)
女子5000m 15分36秒96
第6回チャレンジゲームズ in 大銀ドーム (10月17日・大分)
- 池田 冬乃 (西条農業高校)
女子やり投 48m54
第67回中国高等学校陸上競技対校選手権大会 (6月19日・浜山)

〈県記録〉

- 高山 峻野 (明治大学)
男子110mH 13秒76
第99回日本陸上競技選手権大会 (6月27日・新潟)
- 山本 智貴 (日本体育大学)
男子棒高跳 5m42
第94回関東学生陸上競技対校選手権大会 (5月17日・日産スタジアム)

青少年の夢を応援します!

青少年健全育成 協力企業

- 株式会社サタケ
- 広島駅弁当株式会社
- 株式会社広島銀行
- 広島ガス株式会社

- 広島電鉄株式会社
- 学校法人石田学園
- 株式会社中電工
- 株式会社もみじ銀行

- 広島総合警備保障株式会社
- 有限会社ニシヒロ
- アシックス販売株式会社
- 有限会社道後山高原サービス

- 有限会社BTM
- 株式会社体育社
- 中国電力株式会社
- 大塚製薬株式会社

(順不同)